

令和 6 年 7 月 臨時教育委員会会議録

日 時	令和 6 年 7 月 3 0 日（火） 午後 2 時 0 0 分～午後 5 時 1 5 分
場 所	秦野市役所本庁舎 4 階議会第一会議室
出席委員	教育長 佐藤 直樹 教育長職務代理者 牛田 洋史 委 員 飯田 文宏 委 員 小泉 裕子 委 員 内田 晴久
欠席委員	なし
委員以外 の出席者	教 育 部 長 五味田 直史 教育指導課指導主事 加藤 琢也 教育総務課長 三川 辰徳 教育総務課課長代理 高田 暁 教育指導課長 関野 貴之 教育総務課主査 廣田 達也 教育指導課課長代理 内藤 誠
傍聴者	1 8 名
会議次第	7 月 臨 時 教 育 委 員 会 会 議 日 時 令和 6 年 7 月 3 0 日（火） 午後 2 時 場 所 秦野市役所本庁舎 4 階議会第一会議室 次 第 1 開 会 2 議 案 (1) 議案第 1 1 号 令和 7 年度に使用する中学校の教科用図書の採択について (2) 議案第 1 2 号 令和 7 年度に使用する小学校の教科用図書の採択について (3) 議案第 1 3 号 令和 7 年度に使用する学校教育法附則第 9 条による教科用図書の採択について 3 その他 4 閉 会
会議資料	別紙のとおり

佐藤教育長

皆さんこんにちは。それでは、ただいまより臨時教育委員会会議を開催させていただきます。

先ほど事務局から話がありましたが、定員は12名ということですが、希望があれば随時入っていただくという、公平公正な採択にしたいと思いますので、そのような形で進めさせていただきます。

それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

今回の会議は、議案第11号「令和7年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、続いて議案第12号「令和7年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」及び議案第13号「令和7年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」の3本となります。

まず、議案第11号「令和7年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、提案理由の説明を事務局からお願いします。

教育指導課長

それでは、議案第11号「令和7年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」の御説明をいたします。

本議案は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項の規定により、令和7年度に使用する中学校の教科用図書を採択していただく提案をするものでございます。

本年5月の定例教育委員会会議で議決していただきました採択基本方針に従って秦野市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択に向けた調査・検討を行いました。

この検討委員会は、第1回を5月15日に開催し、調査・研究の進め方などについて協議をいたしました。第2回は7月1日に開催いたしまして、調査員からの教科用図書の調査・研究結果の報告を受け、令和7年度に中学校で使用する教科用図書についての検討を行いました。この検討結果については、報告書として教育委員会に提出され、教育委員の皆様にもお渡しさせていただきました。

本日の会議では、まず、採択検討委員会の検討結果報告を御報告申し上げます。その後、協議の上、16種目それぞれ1者の教科用図書を採択していただきたいと思いますと考えております。

以上です。

佐藤教育長

今回は、教科用図書の採択に当たりまして、教育委員会宛ての陳情書が1件、それから、意見書や要望書が3件提出されております。全て定例教育委員会会議において取り扱っております。また、議会等でも様々な御意見、御質問等をいただいておりますが、その都度、教育委員会会議にきちんと報告させていただいて、

本日を迎えております。

それでは、採択の進め方ですが、まず、中学校で使用する教科用図書について種目ごとに事務局より説明を行い、それを受けて教育委員の皆様で協議をしていただきまして、その後、記名による投票を行いまして、得票数が一番多かったものに決定する、こういう方法で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

では、委員の皆様には既に全ての教科書をよく御覧になっていただいております。各種目について採択すべきとお考えの教科書を決めておられると思います。6月上旬ですか、それから2か月に渡って140冊以上の教科書全てに目を通していただきました。本当に大変なエネルギーだったと思います。秦野の子どもたちということですが、もう既にその中で熟考していただいていると思いますが、事務局の説明を聞いた上で、意見交換、議論をしていただいて、投票で決定したいと思います。

なお、票が割れた場合、最も多い得票でも過半数を超える3票までに至らなかった場合は、再度の意見交換、議論をしていただき、再投票という形になります。

たくさん見てきていただいておりますが、種類が多いですから、お手元にもうありますが、特に社会科は会社の数が多いです。それから、事務局の周辺には教科書を用意してございますので、その都度、御希望があれば、お手元にとって最終確認できるような形を整えております。そのような形で進めていきたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、投票することになりましたので、立会人を指名したいと思います。牛田教育長職務代理に立会人をお願いしたいと思いますが、いかがですか。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、牛田委員に立ち会いをお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

また、全ての種目が完了した時点で第11号議案をお諮りし、議決することにしたいと思います。そういった形でよろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、種目が多いものですから、早速議事に入りたいと思います。

教育指導課長

最初に、中学校の国語から審議をいたします。

国語についてお願いいたします。

国語は、発行者が4者になります。

教科用図書採択検討委員会の報告書では、次のような意見がございました。

東京書籍は、広がる言葉、語彙力を高めることに注力している。

三省堂は、巻末に幅広いジャンルの本が紹介されている。

教育出版は、教材の前後に導入とまとめの説明があり、教材研究の参考となる。

光村図書は、幅広い読み物が充実していて、子どもたちの読書活動の充実を図りやすい。

以上です。

佐藤教育長

以上で説明が終わりました。御意見、御質問等ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

牛田委員

それでは、私は、東京書籍についてまず触れたいと思います。東京書籍は、どの学年も教科開きとして、「未来への扉」とか、あるいは教科書の使い方が記載されていて、それが学習の道しるべになっているなという感想を持っています。あと、各単元の最後に手引や文法の説明などが記載されているのも、学習しやすいのではないか、そんな印象を持ちました。

それと、資料編の「中学生におすすめの本」や「手紙の書き方」、古典の文法やデジタルコンテンツなどが、とても学習を進める上にとって有効に作用していくのではないかと、そんな印象を持ちました。

以上です。

佐藤教育長

ほかはいかがでしょう。

飯田委員

私は、光村図書についてですが、巻末に「語彙ブック」というものがあるのですが、これが生徒たちの話す力、そして表現力を身につけるのに役に立つのではないかと思います。

それと、各教科書会社が様々な本を紹介しているのですね。子どもたちが少しでも本に親しみやすいように構成していただけるのかなというところも感じられます。その中でも東京書籍は、「読書への招待」、そして「読書案内」、こういうものから、特に本に親しむための工夫がされているのではないかと、この感想を持ちました。

以上です。

小泉委員

東京書籍は、各単元のはじめに吹き出しで書かれているめあてがあって、子どもたち目線で書かれているのかなという感じがし

佐藤教育長

て、分かりやすいなと思いました。また、単元ごとの扉のところに写真や詩、俳句や短歌などが載っていて、国語的要素が強いなと感じました。

東京書籍と光村図書は、ビブリオバトルやポップづくり、読書会、ブックトークなどの読書後の活用方法が載っていて、良いと思いました。

あと、光村図書の語彙ブック、先ほど飯田委員からもありましたけれども、話す力への表現力を身につけるのにいいなと思いました。

以上です。

光村図書と東京書籍の教科書ありますか。ちょっと持ってきてもらえますか。

東京書籍だと「本との付き合い方」という形になるのですかね。

秦野市としては読書活動を推進していますので、やはり子どもの読書離れを改善していくことは非常に大きなポイントだと思っています。子どもたちが本に親しむための工夫ということで、先ほどのビブリオバトル、ポップづくり、小泉委員からも話が出ましたが、そういったものにつながるのが大変大事かと思います。

ほかはいかがでしょうか。

内田委員

どの会社も本当によくできていると思うのですが、私の印象では、光村図書ですが、「学びの扉」とか「学びのカギ」、小さいことかもしれませんが、そんなもので学びの方法が非常に具体的に記されているので、生徒や子どもたちにとって分かりやすいつくりになっているのではないかと思います。

また、一方で三省堂も、例えば3年生の教科書の中には、これから大事になってくると思います著作権と引用といったようなこと、その他に、これは光村図書にもあると思いますが、ネット情報の扱い方とかに触れていただいていて、これもこれからの子どもたちが社会で生きていく上では有用な要素になっているかなという印象はありました。

以上です。

佐藤教育長

教科横断的な学習という点で言うと、そういった視点も大事だと思います。

一通り御意見をいただいたのですが、特にプラスでございますか。よろしいですか。

それでは、ありがとうございました。よろしければ、早速投票に移りたいと思いますが、事務局、大丈夫ですか。

では、投票の準備をお願いいたします。

佐藤教育長
教育指導課長

—投票・開票—

では、結果をお願いします。

開票の結果を御報告いたします。

牛田教育長職務代理「東京書籍」、飯田委員「光村図書」、小泉委員「東京書籍」、内田委員「光村図書」、佐藤教育長「光村図書」。

国語につきましては、光村図서가 3 票、東京書籍が 2 票、以上です。

佐藤教育長

ただいまの結果のとおり、光村図서가 3 票、東京書籍 2 票。

それでは、開票の結果、中学校国語につきましては、光村図書で決定いたしました。

それでは、続いて中学校書写についての審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

書写の発行者は 4 者となります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍の「生活に広げよう」では、職場体験のお礼状を書くなど、実際の学校生活で役に立つ教材が設定されている。

三省堂の「やってみよう」では、太いフェルトペンの使い方など、身近な生活に役立つ基本的な所作を学べる工夫がある。

教育出版では、書く速さを意識したり文字の形やバランスを意識したりする項目があり、美しく速く文字を書けるようになるための工夫がされている。

光村図書は、著名人の字を例示しながら、手書きの文字を自分らしい文字と捉え、自信を持って学習していけるように工夫されている。

各者、書くことの技能を学ぶだけでなく、子どもたちが考えながら書字を学べるように工夫がされている。

以上です。

佐藤教育長

説明が終わりました。御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

内田委員

書写ですけれども、私の印象では、東京書籍が、文字の移り変わりや現代につながる文字の役割など文字を学習するに当たっての背景が記載されているので、学びが深まっていくのではないかという印象があります。

もちろん、光村図書にも「文字の歴史を探る」というのがあって、書写なので、文字を書くということですから、歴史的な、時間的な流れが扱われているのいいなという印象を持った次第であります。

佐藤教育長
小泉委員

他はいかがでしょうか。

各者、文字の中心がとりやすくなるような工夫がされていて、教育出版と東京書籍の場合は、中心線が書かれていて分かりやすいと感じました。

それと、筆運びの補助線が東京出版と東京書籍はしっかり入っているのがいいなと思いました。

飯田委員

どの教科書にも姿勢と筆の握り方が載っていたのですね。その辺ですけれども、姿勢については東京書籍、これは正面からの紹介があって、分かりやすいのかなという感じを受けました。

あと、光村図書ですけれども、左手用の毛筆用具の準備の仕方などが記載されていまして、左利きのお子さんのことを考慮していられるのかなと思って、いいなと思いました。

以上です。

佐藤教育長

本当に隅々までよく見ていただき、ありがとうございます。

他はいかがですか。

牛田委員

各者、とてもよく内容が整理されていて、学びやすい編集になっているなという感想を持ちました。

教育出版についてですが、書写のポイントがとてもよく整理されている、そんな感想を持ったのですが、ただ、生徒がこの教科書を机の上に置くことを考えたときに、少し判型が大きいのかなということが気になりました。

また、東京書籍の「生活に広げよう」というところでは、実際の生活の場面を想定して、そして、実生活の中でも活用できるような工夫がされていたこと、それから、光村図書は、別冊の「書写ブック」が練習帳として活用できるのが、それぞれ利点かな、そんな印象を持ちました。

佐藤教育長
小泉委員

他はいかがですか。

東京書籍の「書写活用ブック」、それから、光村図書の「中学生のための漢字辞典」の中に「人名用漢字表」が入っていて、現在、色々な名前のお子さんがいらっしゃるので、その読み方とか、自分の名前を書くときに、それが参考になるかなと思いました。

佐藤教育長

それでは、特に他はいかがですか。よろしいですか。

よろしければ投票に移りたいと思いますが、投票に移ってもよろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、書写についての投票を行います。

事務局、投票用紙の配付をお願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長
教育指導課長

それでは、投票結果の報告をお願いします。
開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「光村図書」、飯田委員「光村図書」、小泉委員「教育出版」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「光村図書」。

書写につきましては、光村図書が3票、教育出版が1票、東京書籍が1票、以上です。

佐藤教育長

光村図書が3票で、教育出版が1票、東京書籍1票ですから、開票の結果、中学校の書写につきましては、光村図書に決定いたしました。

続いて、中学校社会科・地理的分野についての審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

社会科・地理的分野の発行者は4者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍は、現在のルールを続けることで30年後、40年後にどのような変化が生まれるかなど、予測しながら学ぶ工夫がされている。

教育出版は、地理の他のページや公民、歴史との関連が示されており、教科横断的な学びにつなげていくための工夫がされていた。

帝国書院は、章や節ごとに学習を通じての課題が提示されており、その課題に対しての具体的な取組方や考え方が書かれている。

日本文教出版は、SDGsの視点から持続可能な地域を学ぶなど、生徒が地域の視点から未来を考える工夫がされている。

以上です。

佐藤教育長

以上、説明が終わりました。御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

牛田委員

地理的分野ですが、4つの教科書会社をよく拝見させていただきました。とてもよく編集されていて、地理的な思考を広めたり深めたりしていく、そういった工夫がされているなといった印象を持ちましたが、私は、帝国書院について触れていきたいと思います。

帝国書院は、巻頭の最初の10ページ、このところがとても充実していたな、そんな印象を持ったのですね。あと、SDGsとの関連とか、あるいは教科書を活用した学び方、地理的な見方、考え方、地図を活用した学び方、こういった内容のページ構成がとてもよくできているな、そんな印象を持ちました。

ただ1点だけちょっと気になったのが、帝国書院には、巻末に

佐藤教育長

用語解説がなかったと、私はそのように感じたので、そこはちょっと気になりました。

以上です。

冒頭に少しお話ししたのですが、社会科については冊数が多いですから、お手元に教科書を用意してありますので、適宜御覧いただきまして、御意見をいただければと思います。

今、牛田委員から、帝国書院には用語解説がないということだったのですが、今ちょっと見てみましたら、巻末に確かにまとめて記載されているということはなかったですね。ただ、ページごとに用語解説がその都度出ているので、そこは確認できたということで、私も意見として述べたいと思います。

他はいかがですか。

飯田委員

私は、まず、地理と地図の教科書を両方発行しているのが、東京書籍、そして帝国書院ですか。授業を進める上で、地理の教科書と地図の教科書は一緒のほうがいいのではないかと思います。

帝国書院は、写真が多く掲載されて大変分かりやすいように感じました。

また、東京書籍は、「資料から発見」、これで子どもたちが資料を読み取る力や考える力、そして説明する力をつけるのには良いのかなという印象を受けました。

以上です。

佐藤教育長

本当に、どの教科書もすごく秀逸な教科書だなと私も思っています。

他はいかがですか。

小泉委員

私も、教科書会社が本当に研究されて、素晴らしい教科書ばかりでなかなか甲乙つけ難いので頭が痛いのですが、地理については、東京書籍と帝国書院ですが、両者とも、世界の様子、様々な地域について見たときに、教科書の左半分とか上半分に写真が大きめに掲載されていて、とても有効的に活用できるかと思いました。

それから、東京書籍は、同時進行で計画、調査、まとめを行っていけるような配列になっていて、学習の流れが分かりやすいと思いました。

内田委員

各委員の方々がおっしゃるとおりのことだと私も感じております。本当に、細かいところになってしまうかもしれませんが、私の思ったところは、帝国書院の、地図帳の統計資料の見方、例を示しながら書かれているところがとてもいいかと思いました。あと、エネルギーと地球環境問題の特に温暖化のところ、こ

佐藤教育長

これは今すごく、異常気象なども考えると、これからもっと大事なものになってくるのではないかと思いますのですが、帝国書院は4ページぐらいを割いて書かれていて、温暖化の原因や影響、効果ガスの排出量を減らす取組とか、非常に詳細に書かれているのは良い印象を持った次第です。

すみません、今、私も教科書に見入ってしまって。単元の見通しとか振り返りの活動が示されているのは、本日の朝刊で全国学力・学習状況調査の結果分析等がありましたけれども、やはり見通しとか振り返りの活動が示されているのは大事ですし、資料が豊富であること、教科書と地図帳の相互関係という御意見もいただきましたけれども、そのあたりもポイントになってくるかと思っています。

あと、今、私が見入っていたのは、写真が非常にワイドな、今までの平面的な写真でなくて立体的な工夫がされているのだなと思っています。

他はいかがですか。

小泉委員

どの教科書にも地方の特色ある写真が掲載されていましたが、帝国書院は、学習内容が世界から日本に移ったときに、地図が最初に掲載されていて、次に地方ごとの特色ある写真が掲載されていました。それがとても見やすく、次にどの地方を学習するのかが頭の中に最初に入るので良いなと思いました。

佐藤教育長

構造化ということなのでしょうね。

それでは、時間もありますので、よろしければ投票に移りたいと思いますが、よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、社会科、投票用紙の配付をお願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

それでは、投票結果をお願いいたします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「帝国書院」、飯田委員「帝国書院」、小泉委員「帝国書院」、内田委員「帝国書院」、佐藤教育長「帝国書院」。

佐藤教育長

社会科・地理的分野につきましては、帝国書院5票、以上です。帝国書院5票ということで、地理的分野につきましては、帝国書院に決定いたしました。

続きまして、中学校社会科・歴史的分野についての審議を行います。事務局から説明をお願いいたします。

教育指導課長

社会科・歴史的分野の発行者は9者です。

佐藤教育長
内田委員

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。
東京書籍は、思考ツールが示されており、生徒がどう考えを深めていくのか、その課程について触れられている。
教育出版は、ビジュアル資料が豊富にあり、視覚的に学習内容を捉えていく工夫がある。
帝国書院は、具体的なテーマを示していて、生徒の学び合いが実践できるよう工夫されている。
山川出版は、日本の歴史と世界の出来事を関連付けて学べるよう工夫されている。
日本文教出版では、社会参画や未来をつくっていく意識付けをしていく工夫がされている。
自由社では、一言作文があり、生徒自身が学習を振り返り、学びを調整し表現していけるようにしている。
育鵬社では、学びを深めるために、年表や資料から時代像をまとめていけるように構成されている。
学び舎について、判型が他者と比較して大きい特徴があり、学習のまとめを記述するスペースが用意されている。
令和書籍は、他者と比較すると、巻末を含めると500ページを超える文書量となっていて、詳細な記述が多くある。
以上です。

飯田委員

それでは、いかがでしょうか。
歴史についてですが、どれも見せていただいて、私の印象では、帝国書院が、時代区分ごとに学習する内容とかエリア、写真などの資料が見やすいというのでしょうか、それから、解説とか豆知識が記されているコラムがあって、全体のバランスもよくできていて、歴史的な流れがはっきりしていて、子どもたちが分かりやすいのかなという印象です。

佐藤教育長
小泉委員

歴史については、秦野にゆかりがある二宮尊徳を取り上げている教科書が教育出版、育鵬社、自由社、この3者がありました。その中でも育鵬社は、人物クローズアップで「積小為大」を説明されていたのが、ちょっと目に留まりました。
あと、歴史の流れ、そして先人の活躍について、小学校からの振り返りも含めて生徒が考えることができているのかなという印象を受けました。

以上です。
他はいかがでしょうか。
帝国書院の「タイムトラベル」という当時の様子を見開きの絵で表現しているものがありました。写真では分からない細かいと

牛田委員

ころまで目が行く仕組みになっていて、それが良いなと思いました。それを、さらに「学習の振り返り」で、その絵を再度提示して、学習の流れをつくっているところは、とてもいいなと思いました。

それから、日本文教出版と東京書籍と帝国書院は、ページの右端に年表が入っていて、生徒が今どの時代について学習しているのかが分かりやすくなっていて、良いなという印象を受けました。

私も、今、小泉委員が指摘された帝国書院の内容と重なるところがあるのですが、帝国書院の「タイムトラベル」、本当にこれは面白いなと思いました。また、奇数ページ、これも今、小泉委員が触れられていましたけれども、奇数ページに時代区分が記載されていて、生徒が今どの時代を学習しているのかということがわかるようになってるのが、とてもいいなと、そんな感想を持ちました。加えて、帝国書院の工夫点として、「確認しよう」とか「説明しよう」というのがセットになっていたのですね。これらが、学習を進めていく上でのポイントにもなるのではないかと感じたところです。

最後に、細かいことですが、最後の索引が人名とその事項、事柄に分かれていたのが、検索しやすいのではないかと印象を持ちました。

以上です。

佐藤教育長

私も、全ての教科書に当然目を通して、色々長所を感じましたけれども、教育委員会では思考力を高める、思考ツールというものを取り入れていまして、教科書の中に思考ツールが位置づけられているのが帝国書院だと。これは特徴的かなと思いました。

あと、教育出版も、グラフなどが多くて見やすい、振り返り、めあて、その辺りの全体的なバランスには好感を持ってました。

他はよろしいですか。冊数も多いのでなかなか大変だと思いますが。

では、他になれば投票に移りますけれども、よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

それでは、投票に移りたいと思います。

投票用紙の配付をお願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

それでは、結果の報告をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を御報告いたします。

牛田教育長職務代理「帝国書院」、飯田委員「育鵬社」、小泉委員「帝国書院」、内田委員「帝国書院」、佐藤教育長「教育出

佐藤教育長

教育指導課長

佐藤教育長

牛田委員

版」。

社会科・歴史的分野につきましては、帝国書院 3 票、育鵬社 1 票、教育出版 1 票、以上です。

それでは、歴史につきましては、帝国書院 3 票、育鵬社 1 票、東京出版 1 票ということで、歴史分野については、帝国書院ということによろしいですね。

それでは、続いて、社会科の公民的分野について審議を行います。事務局から説明をお願いします。

社会科・公民的分野の発行者は 6 者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍では、小中学校のつながりを大切にした構成になっている。

教育出版では、SDG s の視点を持って、これからの世の中について考える工夫がある。

帝国書院と日本文教出版では、イラストや漫画が効果的に活用されており、視覚的に理解を促す工夫がされている。

日本文教出版では、法教育、主権者教育、金融リテラシー教育の題材を自分の生活や身近な生活と結びつけながら学べるように内容が構成されている。

自由社では、世界の様子を色々なところに入れている。

育鵬社では、公民を地理、歴史との関連を意識できる構成になっている。

以上です。

以上、説明でございます。御意見、御質問等ありましたらお願いします。

それぞれの教科書を拝見させていただいて、本当に公民的分野を学習するにふさわしい内容がよく整理されているなというような感想を持ちました。その中で、私は、教育出版と帝国書院、それから日本文教出版について感想を述べたいと思います。

まずは、教育出版の表紙の副題に「ともに生きる」というようなことが書いてあったのですね。この副題に非常に私はインパクトを感じたのですね。「ともに生きる」、まさに公民的分野を学習していくにふさわしい副題ではないか、そんな印象を持っています。また、序章では、公民を学ぶスタートとして本当によく工夫されていて、学習のポイントが整理されていました。

また、帝国書院ですが、こちらは、「アクティブ公民」というのがあって、とても取り組みやすく、各章の「学習を振り返ろう」も、とても分かりやすく、子どもたちも学習しやすいので

はないか、そんな感想を持ちました。

最後に、日本文教出版ですが、こちらは、用語集の憲法が、憲法の内容については当然変わらないのですが、とても読みやすく感じたのですね。それと、最後の用語解説もとても分かりやすく、子どもたちがとても学習しやすいのではないかと、利用しやすいのではないかと、そんな感想を持ちました。

以上です。

飯田委員

生徒にとって、公民って何を学ぶのかなというのがあると思います。各者、公民では何を学ぶのかというのが記載されているのですけれども、その中で、育鵬社の教科書に概念図が記載されていることで、公民の学習内容がわかりやすくなっているのかなというのがあります。

それと、各者、SDGsについて触れているのですが、中でも東京書籍は、教科書の最後の方にこのSDGsが記載されていて、「SDGsから地球規模の課題について考えよう」とあるのですが、今まで公民について勉強してきたことが、SDGsの目標にどう当てはまるのかを学習した後に考えることができ、その辺がよいのかなと私は感じました。

以上です。

佐藤教育長
小泉委員

他いかがですか。

私は、東京書籍についてちょっとお話をしようかと思っています。

教科書の冒頭で、公民で学ぶ内容について写真や文で紹介されていますけれども、各者色々工夫はされていたのですが、これから学んでいくことが焦点化されていて分かりやすく感じました。それから、「18歳へのステップ」では、公民について自分事として捉えて、より具体的にこれからの社会にどう役立てていけたらいいのかなというような表記が、分かりやすく書かれていたかなと思います。

佐藤教育長
内田委員

他いかがでしょうか。

公民は、社会との関わりを学ぶ教科として非常に大事だと思うのですけれども、また、ちょっとエネルギーのことに触れてしまうのですが、環境のことを考えると、エネルギーのところをしっかり学んでもらうのは大事なことだなと思っていて、東京書籍もエネルギーのところを色々とまとめられているのですが、私の印象では、帝国書院が、エネルギーとして、例えば水素エネルギーなどが扱われていたり、あと、前後のつながりとして、グローバル化社会、色々な社会問題との関係をうまくまとめられていて、

佐藤教育長

非常にいい印象を持った次第であります。

専門がエネルギーですから、やはりそこは大事なことで。

私は、東京書籍の単元の振り返り、見通しですか、先ほどもちょっと他の教科書でも言ったのですが、若い先生方が増えているので、テーマがはっきりしていて学習しやすいのではないかとということと、主権者教育というのが今言われていますので、どの教科書も皆さん、その辺について深く触れてはいるのですけれども、東京書籍が一番使いやすいかなという印象は持ちました。

それでは、他はいかがでしょうか。よろしいですか。

一通り御意見をいただきましたので、では、投票に行きましょう。投票用紙をお願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長
教育指導課長

それでは、結果をお願いします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「教育出版」、飯田委員「東京書籍」、小泉委員「東京書籍」、内田委員「帝国書院」、佐藤教育長「東京書籍」。

社会科・公民的分野につきましては、東京書籍3票、帝国書院1票、教育出版1票、以上です。

佐藤教育長

それでは、開票の結果、東京書籍3票ですので、公民的分野は、東京書籍に決定します。

続いて、中学校の地図について審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

地図の発行者は2者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

帝国書院は、小学校の学習や歴史、公民分野との関連が図られており、学びをつなげていく工夫がされている。また、世界地図の州の全体図で日本の縮尺図が示されており、身近な生活と関連付けしやすい。

東京書籍では、京都市、奈良市などの市内地図があることで、同方面への修学旅行が予定されている学校にとっては、学びを深めるための活用が見込まれる。また、日本の自然や災害に関する資料が整理されている。

以上です。

佐藤教育長

以上で説明が終わりました。御質問、御意見等ありましたらお願いします。

内田委員

地図は2者ということですが、私は、帝国書院の地図の方が、配色もはっきりしていていいのと、国際的な感覚、グロー

佐藤教育長

バル化に対しての意識を養っていく上で、例えば35ページ、36ページに日本列島を逆から見た地図がありますね。これはなかなかいいなと、思った次第であります。

このページですね。そうですね。

私も同じ帝国書院ですが、A5判ということで、見やすさというのは非常に大きいなと思いましたけれども。

他いかがですか。

小泉委員

帝国書院については、世界から日本に移るときに、沖縄、九州からいきなり始まるのではなくて、一旦、日本全国の地図を掲載しておいて、次に日本と入っているところがいいなと思いました。

それから、帝国書院は、鳥瞰図の中にその土地柄の特色をイラストで散りばめてあったので、それは子どもたちに分かりやすいと思いました。

佐藤教育長
飯田委員

他はいかがでしょう。

2つの出版社とも要所、要所に問いがあります。東京書籍では、ミツバチーズというキャラクターなのかな、こういうものが登場してきて問いかける記載があります。

それと、帝国書院についても、「地図で発見」という箇所が、たしか148か所の問いかけがあったと思います。子どもたちには、「地図で発見」という、こちらの方が良いのではないかと私は感じております。調べながら答えを見つけていく、そのような力を養っていくのには良いのかなという感想を持ちました。

以上です。

佐藤教育長
牛田委員

他はいかがでしょう。

皆さんの意見の中でも、帝国書院がとても見やすいというような感想が、今それぞれの委員からもあったのですが、私もちょっとそんな印象を持ったのですね。

帝国書院は、地図上の文字とか絵図がとても見やすいなことと、それからあと、世界や日本の統計表、グラフ、こういったところ、それから索引の文字も非常にはっきり、くっきりしていて、クリアで見やすいな、そんな印象を持ったのですね。

それと、同じく帝国書院ですが、巻頭にある「この地図帳の使い方」とか「地図で考える接続可能な社会」というような視点から、要は、地図上からも課題意識を持って社会的な思考を深めていく、広めていく、そんな構成になっているのではないかと、そんな印象を持ちました。

以上です。

佐藤教育長

他はいかがでしょう。よろしいですか。

佐藤教育長

一通りいただきましたので、よろしければ投票に移りたいと思います。よろしいですか。

—異議なし—

では、投票用紙をお願いいたします。

—投票・開票—

佐藤教育長

それでは、結果の報告をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「帝国書院」、飯田委員「帝国書院」、小泉委員「帝国書院」、内田委員「帝国書院」、佐藤教育長「帝国書院」。

佐藤教育長

中学校地図につきましては、帝国書院5票、以上です。

それでは、開票の結果、中学校の地図については、帝国書院5票ですので、帝国書院に決定します。

続いて、中学校数学について審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

数学の発行者は7者です。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍、大日本図書、教育出版では、その題材が社会ではどのように活用されているのかという視点で、単元の動機付けが構成されている。

大日本図書では、内容構成をコンパクトにしつつ、巻末の補充問題を豊富に掲載することで、生徒が自身の習熟度に合わせて学びを深めていける工夫がされている。

学校図書の各章末にある自己評価欄は、学習の視点を明確にして振り返りができるようになっている。

啓林館では、ステップ方式の利用問題において、学びを深める例が示されており、数学が得意な児童にも配慮したつくりになっている。

日本文教出版の巻末にある「対話シート」は、生徒が考えを表現するための補助となることに加え、ノートに貼れるサイズになっているため、ノート活用のためのツールとしても生かすことができる。

数研出版では、生徒と先生の会話が掲載されており、生徒が困ったときには先生に相談してもよいという安心感を持って学習をしやすい工夫がされている。

以上です。

佐藤教育長

以上、説明がありました。御意見、御質問等がありましたらお願いしたいと思います。

牛田委員

数学の教科書をそれぞれ拝見させていただいて、今、事務局からそれぞれの採択委員会からの話がありました。私も同じような感想を持っているのですが、その中でも、私はここでは東京書籍について触れていきたいと思います。

東京書籍は、各章の最初の扉のページというのがあるのですけれども、そのページが非常に数学的な興味や関心を子どもたちに持たせていくような工夫、この辺がとても面白いなど、そんな感想を持ったのですね。それと、「考えてみよう」「調べてみよう」「説明してみよう」の問いかけがとても分かりやすく、簡潔であつたように思っています。また、ページレイアウトの絵図も、配置がとても見やすく、そして、最後にちょっと私、ここがいいなと思ったのは、巻末の「もっと数学をつなげよう」というまとめ、それから、確かめや振り返り、最後の学習の締めくくりとしての「数学の自由研究」、このところのページもとても充実していて、数学的な興味や関心を持たせていくための工夫がよくできているのではないかな、そんな感想を持ちました。

飯田委員

私は、数学については、将来、数学がどんな仕事に役に立つのかというのが何者かで取り上げられていました。その中でも教育出版の「数学仕事人」がいいなと感じました。数学の魅力、そして、数学が将来どのような仕事に役立つのかが紹介されていて、子どもたちにも何か伝わるものがあるのかなと思いました。

そしてまた、数学って、やはり振り返りが大事なのかなと思っているのですが、その振り返りについては、各者、本当に色々工夫されていました。中でも日本文教出版では、「振り返りシート」が別冊になっていて、切り取って使うことができているのかなという印象を受けました。

以上です。

佐藤教育長
小泉委員

他の方はいかがでしょうか。

私は、啓林館、章の導入から学習に入るところが、スムーズさがあるかなと思いました。「話し合おう」「説明しよう」では、答えが次のページに書かれているのがいいなと思いました。子どもたちが、いきなり答えを見るのではなく、考えて、考えて、そして、ページをめくると答えがあるというのがいいなと思いました。

それと、1年生の教科書だと思うのですけれども、1からマイナス4大きい数とか、2よりマイナス3小さい数などを説明するときに、他者は、数直線を最初の方から使っていたのですけれども、啓林館は言葉で説明してあつたような感じがして、ちょ

内田委員

っと他者と違うのかなという印象を持ちました。そのことは、子どもたちにわかりやすいのではないだろうかという思いがあります。

今、数学の力が落ちてきているみたいながあって、これからの日本の将来を考えると、数学の力、理系の基礎的な力をつけていくことが大きな課題だと思いますが、子どもたちから見て、数学嫌いにならないように、取っ付きやすいような教科書がいいのだらうと思うのですけれども、そんなことを考えながら、私が思ったのは、さっき牛田委員が言われたように、東京書籍のところが、割と紙面の構成が見やすく使いやすいのではないかとちょっと思いました。

また、図形なども含めて視覚的に理解を深める手だてとなっているのではないかとということと、あと、巻末にデジタルコンテンツが記載されていて、授業の補助的な役割と自習でも役に立つ可能性があるのではないかと考えた次第です。

佐藤教育長

全国学力・学習状況調査の分析でも、非常に数学が変わっているなという印象がありましたね。それと、私は、不登校の子どもも残念ながら増えているので、家でも別室でも取り組むことができるというのも1つ魅力なのかなと思っています。ですから、他の教科書との比較になってしまうのですけれども、数研出版も面白い、興味深いなど。非常に説明が丁寧で1人でも理解が深められる、先生との対話形式のものなどもあって、これも良かったかなと私は思いました。でも、どの者も本当によく作り込んでいるなというのが印象です。

他にはいかがですか。よろしいですか。

では、投票に早速行きましょう。お願いいたします。

—投票・開票—

佐藤教育長

それでは、結果の報告をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「東京書籍」、飯田委員「教育出版」、小泉委員「啓林館」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「数研出版」。

数学につきましては、東京書籍2票、教育出版1票、啓林館1票、数研出版1票、以上です。

佐藤教育長

東京書籍が2票、教育出版1票、啓林館1票、数研出版1票ということですから、これははじめに確認したとおり、再投票ということでもいいですか、事務局。

これは、再投票する場合、もう一回やって、また過半数とれな

いともう一回やるということになるのですね。

それでは、東京書籍の教科書と啓林館の教科書を、もし良かったら持ってきてもらえると。委員の皆さんに配っていただいても構いませんけれども。

どうでしょうか。改めて見てみますか。

何か御意見ありますか。

1回決めたものをここで変えるというのは、かなり時間がかかるかもしれませんね。

よろしいですか。もう一度投票ということで、今、各委員の皆様からいただいた意見も踏まえてということになります。大分熟考してきていただいたものの変更というのは難しいと思いますけれども、再度投票ということになりますので。私としても、現場の先生方にとって使いやすい教科書がベストだと思っていますけれども、ただ、その一方で、本市も決して全国学力・学習状況調査の平均正答率が高い訳ではないです。平均にまだ達していないところもありますので、その辺りをどう捉えるかという部分を私は斟酌したいと思っています。

それでは、よろしいですか。

—異議なし—

では、もう一度、特に御意見がなければ再投票ということで。

—投票・開票—

よろしいですか。では、お願いいたします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「東京書籍」、飯田委員「教育出版」、小泉委員「啓林館」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「東京書籍」。

数学につきましては、東京書籍3票、教育出版1票、啓林館1票、以上です。

それでは、再投票の結果、中学校数学については、東京書籍に決定しました。

続いて、中学校理科についての審議を行います。説明をお願いします。

理科の発行者は5者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍では、学習する前の段階で自分の考えを書く活動が設定されており、生徒が自分の考えを持って主体的に学習を進めていけるように工夫されている。

大日本図書では、日常生活と学習内容とのつながりを3つの観

佐藤教育長

佐藤教育長
教育指導課長

佐藤教育長

教育指導課長

佐藤教育長
小泉委員

飯田委員

佐藤教育長

牛田委員

点で扱っており、生徒が理科の日常生活を関連付けて学習できるような工夫がされている。

学校図書では、学習の区切りごとに課題のまとめや、そこから考えられる見方、考え方が表されており、一つ一つの学習の中で何を身につけることができるか分かりやすい構成になっている。

教育出版では、「探究の進め方」が折り込みページになっており、生徒がいつでも確認できるので、学習をスムーズに進めることができる。

啓林館では、単元の導入で小学校の学習内容が例示されているところがあり、小中の学びをつなぎやすいように工夫されている。

以上です。

それでは、御意見、御質問等ありましたらお願いします。

啓林館の「わたしのレポート」では、レポートに書く内容についてアドバイスが赤い字で具体的に書かれているのが、子どもたちに分かりやすいかと思いました。学習活動では、課題、実験の前に「考えてみよう」が入っていて、子どもたちが、自分なりに仮説を立ててから実験に入るような工夫がされているなどと思いました。また、単元ごとに「探Qシート」が1枚ずつ付いているので、学習を深める手だてになるのではないかと思います。

各出版社が色々な問題を出してしまっていて、基本問題があって活用問題、そういう出版社が結構多いのですけれども、その中で教育出版は、基本問題、活用問題、その後に「広がる科学の世界」というものがある、内容を見てみると、ちょっと踏み込んだ題材を紹介していて、子どもたちの考え方が広がっていくのかなと思いました。

それと、地層について各者比べてみたのですが、地層には限らずですけれども、啓林館は、写真などの情報量が多くて分かりやすいのかなという印象を受けました。

以上です。

啓林館は地層ですね。情報量ということでした。

牛田委員、いかがですか。

私は、教育出版と啓林館について感想を述べたいと思います。

理科というのは、思考課程、学習課程がとても重要ではないかと思っています。そういった部分においては、学習の流れがしっかりと生徒目線で整理されているという印象を教育出版には持ったのです。というのは、疑問、それから課題、仮説、そして計画、実験、考察、結論、こういう流れが、私は理科的な思考を深めていく、興味を持たせながら結論に導いていくという学習の流れが

適切に配置されているのではないかという印象を持ったのですね。あと、学習を進めやすいページ構成と単元構成、この辺もいいなという印象を持ちました。

もう1つ、啓林館ですが、ここは、目次がとても丁寧に紹介されていて、目次を見るだけで何か興味をそそられるような印象を持ったのですね。あと、目次を見ることによって、1年間の学習の見通し、この辺のところも立てやすくなっているのではないかと、そんな工夫があるのではないかということ。あと、絵図がとてもきれいだったのですね。私はそういう印象を持ちました。

最後に、啓林館は、各学年の巻末コラムと「サイエンス資料」がまたとてもよく工夫されていて、見やすく、子どもの理科学的な興味や関心を高めていく、そんな題材になっているような印象を持ちました。

佐藤教育長

やはり私も子どもたちの目を引くという点で、図と文字のバランスなどが大事だなと思って見ていましたけれども。

他はいかがですか。

内田委員

度々ですみません。ちょっとエネルギーも重なってしまうのですけれども、再生可能エネルギーとか持続可能性社会の観点で考えると、教育出版の3年生のエネルギー試験のところですが、この記述がよく書けていると思いました。

また、東京書籍は、持続可能社会の記述がすごくよくまとまっていて、いい印象です。

あと、教育出版は、文字による説明がしっかりしているなど。今、牛田委員が言われたことですけれども。

一方、理科離れではないですが、理科を好きになってほしいという観点から考えると、例えば啓林館の絵とか写真が多く使われていて見やすいというのが、やはりそれぞれに魅力かなと感じました。中でも物質系では、身近な話題も多く扱われているということで、子どもたちが、身近で取り付きやすい教科書になっているのではないかと思った次第です。

佐藤教育長
小泉委員

それでは、他に何かございますか。

私としては、よく分からないので悩んでいるところではあるのですけれども、教育出版などは、「課題」と表示されていて、色々教科書の内容があって、最後に「結論」という形で結論が書かれています。

啓林館は、その他にもそうなのですけれども、「課題」があって、本文があって、本文の中で子どもたちが読み取っていく形になっていたのかなと思っていて、どちらが子どもたちにとって学びや

佐藤教育長
内田委員

すいのか、また、先生方にとって、子どもたちに情報を上手に伝えられるのかなと思いながら悩んでいるところではあります。

御専門の内田委員、その辺りはどうですか。

大事ですね。いわゆる教室で先生が指導されるときに、あらかじめ具体的に結論がどうなっていくのかというところが出てくると、どちらかという理科が暗記型みたいな形になってしまう。一方で、やはりこれからは、もっと自分で見て、判断して、経験したことを踏まえて考えていくというのが、特に中学生の段階では、ちょうど理科離れが始まるような段階とも言われているのですね。そういったところで、結論がオープンな形になっていって、そこでどう考えていくのかという流れに持っていくのが、とても大事なところかとは思いますが。

佐藤教育長

その辺り、子どもたちのワクワク感を引き出すということになるのでしょうか。

他はいかがですか。

牛田委員

今、内田委員から理科離れということをご心配されている中で、やはり中学校の理科教育では、教科書をどのように利用して、使って、子どもたちの理科的な思考あるいは興味や関心を持たせていくのかというのは、私もとても大事なことだと思います。

また、そういった中で、理科的な学習をどういう思考課程で進めていったらいいのかということを考えていったときに、また先ほどの話の繰り返しになってしまうのですが、教育出版と啓林館について少し感想を述べたいと思います。

教育出版は、先ほどもちょっと話をさせてもらいましたが、疑問から結論への道筋への配列、導き方が非常にうまく整理されているなという印象を持ったのです。

あと、啓林館は、自分で考えながら学習の振り返りをしてまとめへと引っ張っていく。このところが、教育出版と少し流れが違うのかなという感想を持ったのです。

どちらがいいかというのはなかなか難しいところですが、現場の先生にしてみたら、どちらの方が授業を組み立てやすいのかということと、あわせて、子どもたちにとって理科的な思考を深めていく、あるいは広げていくためには、どちらの手法を取ったらいいのかというところが、1つ選択として難しいところかな、そんな感想を持ちました。

佐藤教育長

本当に難しいですね。小泉委員も先ほど迷っていらっしゃるということですが、よろしいですか、この辺で。

では、投票に行きましょうか。お願いします。

佐藤教育長
教育指導課長

—投票・開票—

では、結果の報告をお願いします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「啓林館」、飯田委員「啓林館」、小泉委員「啓林館」、内田委員「啓林館」、佐藤教育長「教育出版」。

中学校理科につきましては、啓林館4票、教育出版1票、以上です。

佐藤教育長

啓林館4票、教育出版1票ですので、中学校理科につきましては、啓林館ということで決定しました。

続いて、中学校音楽について審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

音楽・一般の発行者は2者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

教育出版では、SDGsとの関連を全学年で取り扱っており、社会的な課題と音楽を関連付けられるように工夫されている。

教育芸術社では、生徒に馴染みのある著名人からのメッセージや国内外の豊富なポピュラーミュージックを掲載して、生徒の興味・関心を引き立てるような工夫がされている。

以上です。

佐藤教育長

以上、説明がありました。御意見、御質問等ありましたらお願いします。

内田委員

私が拝見させていただいた中では、教育芸術社の教科書では、各单元の中に、それから3年生の教科書では巻末に、オペラや歌舞伎などについて、音楽の歴史、時間的な流れの視点が記載されていたと思います。それから、3年生の教科書の巻末には、上段が日本、下段が西洋の音楽の歴史という年表になっていて、写真などを使いながら分かりやすくまとめられていたのではないかという印象です。

佐藤教育長
小泉委員

他はいかがでしょうか。

私も両方比べさせていただいて、甲乙つけ難くて悩んでおりますけれども、教育出版社のところでちょっといいなと思ったのは、指揮について書かれていて、1年生のときには単純な指揮がちょっと掲載されていて、2・3年になると、今度、曲に合わせた指揮という形で紹介されていたので、そこが変化を持たせていいなと思いました。

それから、言葉リズムで抑揚を生かした表現しようというところで、「CMソングをつくってみよう」というような内容がありました。こういう言葉かけは、子どもたちにとって身近にあるの

飯田委員

で、音楽に興味を持って曲づくりなどをしてもらえるのかなと思いました。

音楽2者ということですが、教育芸術社ですが、これには、ルールを守って音楽を楽しむという著作権についても書かれていたところなのですね。今、子どもたちが色々な音楽等をダウンロードしたりするときに、著作権について少しでも知っていた方がいいのかなと思いました。

あと、両者とも「君が代」が最後の方に記載されていました。教育出版の方は「さざれ石」の紹介もあったりして、さざれ石がどんな石なのか、子どもたちに知ってもらうためには良いのかな、そんな感想を受けました。

以上です。

佐藤教育長
牛田委員

他はいかがでしょうか。

私も2者拝見させていただきました。なかなか専門的な視点からのコメントというのは難しいので、感想ということで述べさせていただきますと思います。

まず、教育芸術社は、巻末に「音楽の約束」というところがありまして、これがとてもよく整理されているなという印象を持ったのですね。

あと、教育芸術社は、私がまず好印象だったのは、表紙のイラストがとても躍動感があって、何か青春を感じさせるような表紙で、音楽の授業を楽しく学べそうな感想も持ったのですね。

本当に専門的な視点からの感想ではないのですが、レベルの低いコメントかもしれませんが、そんな印象を持ったということです。

私は、音楽の教科書の採択に当たって大事なことは、授業を通じて子どもたちに何を歌わせたいのか、あるいは何を鑑賞させたいのか、あるいはどんな楽器を子どもたちに使わせたいのかという現場の先生方の思いもあると思うのですね。ですので、そういったところも採択に当たっては大切にしていける必要があるのではないか、そんな印象を持ちました。

佐藤教育長

そうですね、私は、教育芸術社が、子どもたちが興味を持ちそうな今どきの歌が結構入っていたかなと、それがすごく印象に残っていました。私も音楽は専門外ですので印象になってしまうのですけれども。

また、各者のコンテンツの中で二次元コードというのは、現場の先生方がどのぐらい使いこなせているのかなとちょっと気にはなるところで、やはり教科書の質が非常に高くなっていますから、

内田委員

これを上手に使いこなすことが非常に大きな課題だと感じています。

二次元コード、QRコードですね、これは他の教科でもたくさんあるものとなないものとがあって、私も全部、可能な限り見るようにしたのですけれども、あるからいいとか、ないからだめだというのではなくて、QRコードを見ても、逆に中を見ていくと、非常に充実したものもあれば、まだまだ未完成のものもあります。特に音楽などは、QRコードで音が聞けるとか、そういう使い方もできると思うのですが、一方で、今、教育長が言われたように、現場の先生方がどういう場面でどのように使っていくのかがなかなか定まっていない状況があって、本当にこれが今、QRコードがあるからいいのかどうかというのは、難しい判断材料かなとちょっと思ったところではあります。

佐藤教育長

QRコードの中身については、今回は対象にしないという話でしたね。その辺、今、内田委員が言われたような懸念もあると思いますけれども。

いかがでしょうか。一通り御意見をいただいたのでよろしいですか。

よろしければ、投票に移りたいと思います。お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

では、報告をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「教育芸術社」、飯田委員「教育出版」、小泉委員「教育出版」、内田委員「教育芸術社」、佐藤教育長「教育芸術社」。

音楽につきましては、教育芸術社3票、教育出版2票、以上です。

佐藤教育長

それでは、開票の結果、中学校音楽につきましては、教育芸術社に、3票ということで決定しました。

続いて、中学校音楽・器楽合奏についての審議を行います。説明をお願いします。

教育指導課長

音楽・器楽合奏の発行者は2者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

教育出版では、取り扱う楽器が演奏方法で種類分けされており、同種類の楽器でも西洋と東洋の楽器で比較することができる。

教育芸術社では、巻末に演奏形態や楽器の特徴によって7つに分類した表が掲載されており、世界では多様な楽器が存在していることを知るきっかけとなる。

佐藤教育長
飯田委員

以上です。

それでは、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

器楽も2者ということですが、2者ともが色々な楽器の取り扱いの説明があります。その中でもギターですけれども、ギターコードについて、教育出版は写真でコードの押さえ方が載っていて、教育芸術社の方はイラストでしたので、写真の方が子どもたちにとっては分かりやすいのかなという印象を受けました。

以上です。

佐藤教育長

私は、やはりセットの方が混乱しないと思いますけどね。

他はいかがですか。

牛田委員

私も今、教育長がお話しされたとおり、音楽の教科書が教育芸術社と今決定しましたので、やはり器楽の教科書もセットで、対にして考えたほうがいいのかという感想を持っています。

加えて、先ほどの教科書の紹介のときのコメントと重なるのですが、教育芸術社の表紙から音楽の楽しさが伝わってくるのですね。ですので、その辺のところも教育芸術社の良いところかな、そんな感想を持ちました。

佐藤教育長

やはり子どもたちが表紙から受ける印象というのは、ある意味大きいと思いますね。現場の先生たちにとって、音楽と器楽が違うというのは、かなり混乱するのではないかと懸念しますが、でも、別々に採択しなければいけないということもありますが、いかがですか。

内田委員

器楽のところを先生がどのように使われるかということもあるかと思いますが、やはり音楽の教科書と一緒にの方がいいのかというのは、私も同感です。あと、表紙は本当に同感ですね。楽器の絵が並んでいるだけなのか、あるいはもっとダイナミックな絵がというのは、本当に取っ付きやすさがあるかもしれないですね。そんなところですよ。

佐藤教育長

私がそうやってしまったのでね。必ずしもセットにしなければいけないということではないですから、そこはちょっと確認しておきたいと思います。

他はいかがですか。

小泉委員

今、皆さんから、できればセットがいいけれどもというお話がありましたけれども、私は、教育出版の楽器の写真の口元とか手元、その辺の扱いがすごく細かく見られるように写真が大きくされていたところが、すごくいいなと感じたのですね。

それから、巻末にある「レッツプレイ」とか「レッツトライ」で、両者とも色々な曲をたくさん載せていらしたのですけれども、

佐藤教育長

特に教育出版の方は、日本の曲が多く取り上げられていたかなという印象を持ちました。

セットでという話もありますけれども、私の見せていただいた感想で、すみません。

その辺、やはり難しいですね。現実路線でいくのか。ただ、何度も言うようにですけども、それぞれの教科書の内容を見ていただいて、その上で判断していただくという事は変わりありませんので、その辺、再確認させていただきます。

それでは、早速ですけども、投票に移りたいと思います。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

では、お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

では、お願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「教育芸術社」、飯田委員「教育出版」、小泉委員「教育出版」、内田委員「教育芸術社」、佐藤教育長「教育芸術社」。

音楽・器楽合奏につきましては、教育芸術社3票、教育出版2票、以上です。

佐藤教育長

開票の結果、中学校音楽・器楽合奏については、教育芸術社3票ということですので、教育芸術社に決定いたしました。

続いて、中学校美術についての審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

美術の発行者は3者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

開隆堂では、表紙に他者と異なるインクを使用しており、手で触って作品の質感を感じられる工夫がされている。また、紙面の紙質は反射の少ない素材が使用されている。

光村図書は、日本絵画を掲載したページで和紙を使用しており、当時の作品の雰囲気や質感が想像しやすくなるように工夫されている。

日本文教出版の教科書が3冊で構成されていることは、学年ごとの区切りが生徒にとって分かりやすい。また、鑑賞と表現を見開きページで構成しているので、それぞれの学びを関連付けて学習を進めやすい。

以上です。

佐藤教育長

以上、説明がありました。御意見、御質問ありましたらお願い

牛田委員

します。

3者それぞれ特色があって楽しい芸術科の授業が展開できるかな、そんな印象を持ちました。その中で、私がここで触れてみたのは、日本文教出版なのですね。

日本文教出版の教科書を拝見させてもらったのですが、まず印象を持ったのは、全体的に絵や写真が多くて、とても色彩が明るいなという感想を持ったのです。それから、絵や写真などの配置も、それぞれのページ構成がとても見やすく、子どもたちも引きつけられやすいな、そんな感想を持ちました。また、最後に、巻末ですが、「学びを支える資料」がとても充実していて、説明も丁寧だなという印象を持ちました。あと、これが分冊になっているので、軽くて扱いやすいのかなというところも利点かなということです。

最後に、日本文教出版の3年生ですが、「あなたへー明日への巣立ち」というのが最終学年ということなのですが、ここに私はとても良い印象と言ったらいいなかな、好感を持ちました。最後の美術科の授業の締めくくりとしてのページとして、とても好感を持ちました。「あなたへー明日への巣立ち」というページですね。

以上です。

佐藤教育長

明るい構成というのは非常に大事だと思います。ただ、学校によっては、資料集を買っている学校もあると記憶していますので、資料集が付いているのは1つ魅力的だなと思いますけれども。

牛田委員

もう1者の光村図書、こちらにも触れておきたいと思います。

光村図書の別冊の資料も、とても資料が丁寧にまとまっていて、学習しやすい、そんな印象を持ちましたので、ちょっと加えて紹介させてください。

内田委員

私の印象では、開隆堂の教科書が、色が明るくて色彩がよいのと、何ととっても表紙に特色があって、立体印刷になっていて油絵のようなところ、美術の教科書としては非常にいいのかなと思いました。

あと、最近の中学生ですので、漫画という切り口も大切なのかなと思いました。そういった意味では、光村図書が、漫画表現が非常に詳しく扱われていたのではないかと思います。

以上です。

佐藤教育長

漫画ですね。本当に文化ですからね。

いかがでしょうか、他には。

小泉委員

今おっしゃるように、漫画等もあちこちに掲載されていて、そ

飯田委員

の漫画等も比べてみたのですけれども、やはり各者色々と工夫されていて、いいなと思いました。

あとは、子どもたちの作品に、子どもたちの言葉、制作者の言葉辺りも添えられていて、それもどの者もあったので、三者三様、いいところがたくさんあって、美術についても私の中ではなかなか決めかねたところでした。

その中でも開隆堂が、SDGsを分かりやすく紹介していて、著作権についても紹介されていたなと思います。

それから、光村図書については、日本の絵画の紙質を変えて綴じ込んでいるところに、やはり工夫を感じました。別冊の資料集があるのも良いなと思いました。

日本文教出版は、短い時間でつくれる作品の紹介とか、作品の修復などについても触れられていたのが、ちょっと他者とは違うなと感じました。

この教科書の3者ですが、私の印象としては、どの教科書も本当にきれいで、色々な資料がたくさんあって、そして、どの教科書会社も、教科書の紙面構成が本当によくできているなという印象でした。中でも光村図書は、たしか紙の材質を変えている資料があったと思いました。その辺がちょっと工夫を感じました。

あと、資料に関してですが、私が3者見た中では、開隆堂が一番充実しているのかなという印象ですね。

佐藤教育長

開隆堂は、本当に色のバランスがいいと思いますし、光村図書は、先ほど小泉委員が、日本の絵画の紙質を変えているとおっしゃられていましたね。そういった工夫もありますし、本当に甲乙つけ難いところだと思います。

他はいかがですか。よろしいですか。

それでは、投票に行きたいと思います。よろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

それでは、結果をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「日本文教出版」、飯田委員「開隆堂」、小泉委員「開隆堂」、内田委員「開隆堂」、佐藤教育長「光村図書」。

美術につきましては、開隆堂3票、日本文教出版1票、光村図書1票、以上です。

佐藤教育長

開隆堂3票、日本文教出版1票、光村図書1票ですので、美術

教育指導課長

につきましては、開隆堂に決定します。

続いて、保健体育ですね。お願いします。

保健体育の発行者は4者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍では、巻末スキルブックの内容が充実していると同時に、見やすく整理されている。

大日本図書では、章末に学習のまとめとして重要な言葉がまとめられている。また、「学びを生かそう」を通して、学習したことを今後の実生活に生かせるように工夫されている。

大修館、「野外スポーツと危険」では、川の危険の項目で、秦野に関する記述が一部あり、生徒が身近な生活とつなげて安全な生活について学べる。

各者ページ構成に規則性があり見やすいが、特に学研では、単元体系が必ず左ページに記載されているので、今、何を学習しているのかを把握しやすい。

以上です。

佐藤教育長

説明が終わりました。それでは、御意見ございましたお願いします。

内田委員

いずれもいい教科書だと思うのですが、大修館の教科書は、先生が話題づくりに最もやりやすいという意味では、秦野の水無川の写真があるように、使いやすいのではないかと思います。あと、人体の構造のところで、人間の筋肉が掲載されているところ、筋肉の名前だけでなく、その働き、機能みたいなものの説明が添えられているところ、あと、キーワードが50いくつも付いていたりとか、気象災害に関しても4ページぐらい扱っているというように、非常によくできているのではないかという印象です。

佐藤教育長

他はいかがでしょうか。

小泉委員

最近のこの暑さに、熱中症について書かれているのはどんな感じかと思って比べてみたのですが、大修館と大日本図書は、予防も含めてしっかり書かれているなと思いました。大修館は、章のはじめに学ぶことや学習の学びについて記載されていて、見開きのページに写真がたくさん載っていたのですが、学ぶ内容がイメージしやすいのかなと感じました。

佐藤教育長

他はいかがでしょうか。

飯田委員

私も大修館なのですが、「野外スポーツの危険と対策」というので、先ほど採択検討委員会の報告の中にもありました。そしてまた、先ほど内田委員も触れられたということで、水無川が取り上げられている。それと、大修館は、「感染と病原体」というと

佐藤教育長
牛田委員

ところで、新型コロナウイルス感染症の症状、そして潜伏期間などが詳しく載っていたので、子どもたちがこれから勉強する上で、新型コロナが少し下火になってきたと言いながらも、まだまだ子どもたちに知っておいてほしいなという思いがあります。

以上です。

他にいかがでしょうか。

私も、東京書籍、大日本図書、大修館について感想を簡単ですが述べたいと思います。

まず、東京書籍は、全体を通じて単元体系が必ず左ページにあって、とても見やすいなということ、それが1点と、2点目は、性に関すること、それから自然災害、最近も東北地方で線状降水帯でしょうか、大雨で大きな被害を受けた地域もあるようですが、自然災害に関すること、あとはドラッグ、薬物に関すること、その辺のことがしっかり記載されているなというのが、東京書籍の教科書を見て感じました。

大日本図書については、1つ、私にインパクトがあったのは、心肺蘇生法の手順や写真。学校でも、救命救急ができずに不幸な事故が発生したということを耳にすることがあります。そういった意味においては、心肺蘇生というのはとても大事な学習ではないかと思うのですね。その辺のところの手順とか写真が詳しく紹介されていて、なおかつ、分かりやすいなと感じたのが大日本図書でした。

最後に、大修館は、神奈川県あるいは秦野のことが写真で紹介されていること、身近なところで学習への親しみやすさを感じるような、そんな印象を持ったのですね。それと加えて、大修館は、章ごとのまとめがドリル形式になっていたのも、とても学習の振り返りをしやすい、まとめがしやすいのではないかと。

それぞれ特色があって、なかなか甲乙つけ難いのですが、それぞれそんな印象を持ちました。

佐藤教育長

どれも本当によくつくられていて、さっきの小泉委員の話ではないですけども、選ぶのが難しいですね。

そうは言ってもいられないので、投票しましょう。お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長
教育指導課長

それでは、お願いします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「大修館」、飯田委員「大修館」、小泉委員「大修館」、内田委員「大修館」、佐藤教育長「大修館」。

佐藤教育長

保健体育につきましては、大修館5票、以上です。

それでは、開票の結果、保健体育につきましては、大修館に決定します。

続きまして、中学校技術について審議を行います。事務局、お願いします。

教育指導課長

技術の発行者は3者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

中学校から学び始める分野であるため、各者、ガイダンスが丁寧に設定されている。

東京書籍では、巻末の総合的な問題解決に関する内容が充実している。また、情報に関する取り扱いが、他者と比較して多い。

教育図書では、章ごとにある問題発見から学びの振り返りまでの流れがわかりやすい。

開隆堂は、ガイダンスでコンピューターやスマートフォンの扱い方に関するページがあり、学習で使用する際の留意点や実生活における注意点について取り上げている。

以上です。

佐藤教育長
内田委員

それでは、御意見等はございますか。

技術分野は、日本の将来にとって非常に重要な分野だと思うのです。特に総合的な問題解決の手法は、東京書籍は、巻末ではありますけれども、1つの技術だけでは、色々な問題解決するためには難しいと思うのです。色々なものを組み合わせるとか、そういう総合的な力はすごく大事なことになるのではないかと思います。そういった意味で、例えば材料と加工、生物育成、エネルギー変換あるいは情報技術を統合応用した技術製品が取り上げられています。このところが非常に特色があって、これからの問題解決をしていくような教材としては、学習した技術に関連させながら問題解決について学ぶことができるようになっていないかと思いました。

あと、「すごいぞ技術」といったところでは、データサイエンスやメタバースなど、言語に関する事例も記載されていて、とてもいいなと思います。

佐藤教育長
小泉委員

小泉委員、今うなずいていましたけれども、いかがですか。

私も今お話を聞いていて、色々な技術とかその他諸々が組み合わせられていくというところで、納得したところです。

私は、東京書籍には、各編の終わりに「未来のテクノロジー」「学習のまとめ」とか「すごいぞ技術」などの記載するページがあって、その学習の流れもいいなと思いました。それと、先ほど

佐藤教育長

飯田委員

牛田委員

佐藤教育長

出ていましたけれども、問題解決例がたくさん記載されていて、ヒントも加えられているので、子どもが取り組みやすいように感じました。「学んだことを社会に生かす」では、日本人が開発し、実用化した技術について記載されていて、子どもたちが技術を学ぶ意欲を高めることにつながるのではないかと思います。

失礼しました。専門家がもう1人いらっしやって。飯田委員、すみません、ぜひお願いします。

東京書籍は私も、それと開隆堂ですね。この2者は、木材について、各工程が写真を掲載しながら作業項目ごとにすごく見やすいレイアウトになっていまして、この2者は大変分かりやすいのかなと思いました。

また、東京書籍は、製図で3Dキャドのソフトウェアを使ってモデルを作成するという手順が記載されているのですが、これが、子どもたちにも大変分かりやすいのかなという感想を持ちました。

以上です。

私も教育図書と開隆堂について感想を述べたいと思うのですが、どうしても技術科の教科書となると、絵図とか写真、ここがとても重要ではないかと思うのですね。絵図や写真を見るだけで学習の内容が分かると言ったらいいのか、そういうレイアウト、それから、文章を読まなくても何を伝えたいのかという学習のポイントの解説が伝わってくる、どうしても私はページレイアウトとかページ構成とか絵図の配置とか、そんなところに目が行ってしまうのですが、そういったところから少し感想を述べたいのです。

教育図書は、各ページ、写真とか想定、絵図の配列が、規則性があるってとても見やすいのではないかな、そんな印象。あと、別冊の「スキルアシスト」は、解説の要点が非常にコンパクトにまとまっていて、とても見やすく役に立ちそうだな、そんな印象を持ちました。

あと、開隆堂も、同じように写真とか絵図の配列がよくて、ページレイアウトも規則性があるって見やすいな、そんな感想を持ったのと、いま一つ、開隆堂は、情報の関係もしっかりわかりやすく、丁寧に紹介されているのではないかな、そんな印象を持ちました。

私も以前、半年ぐらい技術・家庭科の教員をやっていたことがあります。牛田委員が言われることはすごくよく理解できますけれどもね。

佐藤教育長
教育指導課長

他はいかがですか。よろしいですか。

では、投票に行きましょう。

—投票・開票—

それでは、投票結果をお願いします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「開隆堂」、飯田委員「東京書籍」、小泉委員「東京書籍」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「東京書籍」。

技術につきましては、東京書籍4票、開隆堂1票、以上です。

佐藤教育長

それでは、開票の結果、中学校技術につきましては、東京書籍4票ですので、東京書籍に決定します。

続いて、家庭科ですね。家庭科についての審議をお願いします。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

家庭の発行者は3者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍で取り上げている家庭内事故について、イラストから連想する活動は、より安全に住生活を営むことや想像力を働かせて日々の生活を送ることにもつながる。

防災袋について各者で取り扱っているが、教育図書では、自分で大きさを決めるような構成になっているので、実際の場面を想定して生徒が考えることにつながる。

開隆堂では、調理実習例と関連させた「調理方法Q&A」があり、調理科学と関連付けて生活の営みに関わる見方、考え方を働かせられるように工夫されている。

以上です。

佐藤教育長

以上で説明終わりましたが、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

小泉委員

家庭科は、調理実習の写真がどこもととてもきれいで、おいしそうに見えるなという感じがしましたけれども、他者でも大きく分かりやすく載せてあるところがあつたのですが、東京書籍の場合、流れが分かりやすいというのは他の出版社も同じなのですが、同時進行で付け合わせみたいなの、合わせ例も時間を追って同時進行でできるような段取りを取られているのが、見やすくていいなと思いました。

それから、ちょっと細かいことを言うのですが、ハーフパンツの作り方が開隆堂と東京書籍に載っていたのですが、東京書籍の方は、片方の足にもう片方を重ねて中表で縫っていく形がとられていて、開隆堂の方は、脇を先に縫った後、股下を縫っ

飯田委員

ていくという形で書かれていました。両方ともそんなに大差はないのですけれども、私としては、重ねて縫ったほうが分かりやすいかと思いました。

今、小泉委員から調理の流れとか手順の話がありましたけれども、どの出版社も調理時間が掲載されていました。その中でも開隆堂は、教科書の上部に時間が細かく掲載されていて、分かりやすいのかなという感じを受けました。

それと、家族・家庭について紹介されているページが各会社あるのですが、その中でも、開隆堂は、「ヤングケアラーの声」が掲載されていて、子どもたちがヤングケアラーについて詳しく知る機会になるのかなという感想を持ちました。

以上です。

佐藤教育長
牛田委員

他はいかがでしょうか。

私は、東京書籍と開隆堂について感想を述べたいと思いますが、今、小泉委員からハーフパンツの作り方の紹介がありましたけれども、そういった細かい視点からのコメントはなかなかできなくて恐縮ですが、東京書籍が、私は、最初のページの「家庭分野のガイダンス」というのがありまして、ここのところがとても分かりやすくて、自分の生活に置き換えて考えることができる、年間の学習の見通しを立てることができるのではないかと、そんな印象を持ったのです。あと、各編の終わりに記載されているのですが、「学習のまとめ」というのも、とても要点が押さえられていて分かりやすいな、そんな印象を持ちました。

開隆堂は、これは本当に見た目というところでの感想で恐縮ですが、全体的に写真を大きく使っているのではないかと。そして、ページの紙面構成がとてもシンプルで、統一性とか規則性があったとても見やすいな、そんな印象を持ちました。

簡単ですが、そんな感想でした。

佐藤教育長

ちょっと先に意見を言ってしまうかもしれませんが、私は、東京書籍の21ページで、「アニメとか漫画などに見る暮らしの例」というのは、なかなかこれ、先生方は話がしにくいところなのですが、ダイバーシティとか多様性という点でいうと、こういった家族の新しいあり方について学ぶことも重要なのかなと。それが、実際の漫画とか映画とか、そういうものをうまく使っているなという感じはしました。

他はいかがですか。

内田委員

家庭科ですけれども、教育図書が、一番最後のところに色々なマークを取り上げていて、巻末のところに説明もあって非常にい

佐藤教育長

いなと思ったりしました。

あと、全体の構成ですけれども、東京書籍は幼児の生活と家族というのを、最後のところでもう一回扱うような流れになっていますね。子どもたちが学習していくときのことを考えると、全体の流れとしては東京書籍の構成がいいのではないかというのが私の印象です。

本当に家庭科の学習範囲は非常に広がってきているなという印象ですね。

他はいかがですか。よろしいですか。

では、早速投票に行きましょう。お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長

では、お願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「東京書籍」、飯田委員「開隆堂」、小泉委員「東京書籍」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「東京書籍」。

佐藤教育長

家庭につきましては、東京書籍4票、開隆堂1票、以上です。

東京書籍4票、開隆堂1票ということですので、中学校の家庭科につきましては、開票の結果、東京書籍に決定します。

続いて、中学校英語についての審議を行います。事務局から説明をお願いします。

教育指導課長

英語の発行者は6者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

各者、小学校の学びとつなげる工夫がされており、特に、東京書籍では、小学校の内容を場面に当てはめて復習できるように工夫がされている。

開隆堂では、新出表現が漫画形式で示されているので、生徒にとって興味が湧きやすく、使用場面や状況のイメージを持ちやすい効果が期待できる。

三省堂では、身近な場面や状況で使われる自然な英語が設定されているので、実際のコミュニケーションに近い活動を行いやすい。

各者系統立てて学べるような構成がされているが、教育出版の3年間を通して英語を発信する力が身につけられるような構成は、中学校生活を通して系統立てて学びやすい。

光村図書の帯教材「L e t ' s T a l k」は、即興的に学ぶことができ、間違いを恐れずに実践的に学べる工夫がされている。

啓林館では、「S p e a k」で、自分の気持ちを考えることが

佐藤教育長

自己表現活動に結びつき、生徒が自分の意思を持って表現することにもつながる。

以上です。

以上で説明が終わりました。御意見、御質問等ありましたらお願いします。

飯田委員

英語に関しては6者出されているということですが、小学校の流れ、そういうものも考えたりして、小中のつながりとかも考えますと、三省堂が、先生方も使いやすいのではないかと考えております。

また、啓林館などは、海外で活躍している大谷選手などを取り上げて、子どもたちも関心を持って学習ができるのかなとは思っていますが、小学校からの流れを考えると、私は、三省堂かなという考えです。

以上です。

佐藤教育長
牛田委員

一貫の視点ということでしたが、いかがですか、他には。

英語学習の基本的な柱は、やはり4つの活動だと思うのですね。書くこと、読むこと、そして聞くこと、話すこと。この辺の4つの視点で教科書を拝見させてもらったのですが、どの教科書会社も、その辺の学習の課程の組み立て方がとても工夫があって、よくできているのではないかと、そんな感想を持ったのですね。

その中で、三省堂、光村図書、啓林館、この3者について感想を述べたいのですが、三省堂については、各学年指標のレッスンごとの基本本文のまとめというのがあって、これが、基本本文ということで、応用が効いて、とても参考になるのではないかと。

あと、光村図書は、最初の登場人物の紹介が、他者に比べると、子どもたちの興味をそそるような紹介になっているのではないかと、そんな印象を持ちました。

啓林館は、判型が少し大きいのが気になったのだけれども、奇数ページに必ず「Listen」「Speak」「Write」の記載があって、子どもたちが学習しやすいのではないかと、学習のまとめとしても使いやすいのではないかと、そんな感想を持ちました。

佐藤教育長

やはり場面設定が明確であることはすごく大事なかなと。それから、見開き1ページに4機能が完結して掲載されているというのは、やはり大事かなと。三省堂が、それに一番近いのではないかと印象を持ちましたけれども。

内田委員

私は見方が他の委員と違うのかもしれませんが、私の印

佐藤教育長
小泉委員

象では、東京書籍が、例えば1年生は会話型の記述になっていて、2年生のところでテクノロジーとか職歴、世界遺産など、幅広いプレゼンテーションテーマが扱われているのですね。それから、3年生ではポップカルチャーあるいは報告書の書き方などを扱っていて、英語を通してこれからの社会に必要なことを学ぶことができる、英語を学びながら、さらに、これからの社会で必要なことも学んでいけるといった意味では、東京書籍がいいのかなと思います。

小泉委員、まだ御意見が。

各者とも小学校の復習が載っていました。非常に簡潔に復習をしているところ、それから盛りだくさんに復習がされているところ、色々ありましたけれども、三省堂は、復習の量としては意外とあるかと思ったのですが、内容がシンプルで分かりやすいかなと思いました。また、小学校で習った語句をまとめて書いてあったので、英語の苦手なお子さんは、復習しながら、めくってみながら、参考になるのかなと感じました。

それから、単元の流れが分かりやすく、プロジェクトで話し合っ、英語で作文したり表現したりする場が設けられていることに良さを感じました。あとは、クイズ大会、紙芝居、ロボット選手権など、面白いネタを取り扱っていたので、子どもたちに興味を引くのかなという思いがしました。

佐藤教育長
小泉委員
佐藤教育長

今のは全体的に三省堂のことですか。

はい。

他はいかがですか。よろしいですか。

それでは、投票に行きましょう。お願いします。

—投票・開票—

佐藤教育長
教育指導課長

では、開票の結果をお願いします。

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「三省堂」、飯田委員「三省堂」、小泉委員「三省堂」、内田委員「東京書籍」、佐藤教育長「三省堂」。

英語につきましては、三省堂4票、東京書籍1票、以上です。

佐藤教育長

三省堂4票、東京書籍1票ですので、英語につきましては、三省堂に決定しました。

それでは、最後の種目、道徳です。お願いします。

教育指導課長

道徳の発行者は7者になります。

採択検討委員会の報告書では、次のような意見がありました。

東京書籍では、心情円が掲載されていたり、自分の考えを段階的に深める構成をとっていたりと、全体に共通して自分事として

佐藤教育長

牛田委員

深く考えられるような工夫がされている。

教育出版の各教材の末尾にある「学びの道しるべ」では、考える視点を投げかけるような表現になっており、生徒が段階的に学びを深めていける構成になっている。

光村図書では、漫画を取り入れるなど、生徒が読みたくなるような工夫がされている。

日本文教出版の教材文の中で登場するZARD「負けないで」や学研の井上康生さんなど、地域に関連した題材は、生徒にとって身近なことへとつなげやすくなる効果が見込まれる。

あかつき図書の「マイプラス」では、教材文に対して多様な視点を持って自分に問うことで、考えを深められるように工夫がされている。

日本教科書では偉人の言葉が紹介されており、それについて自分がどう思うか、生徒自身が自分事に置き換えて考える活動が設定されている。

以上です。

説明が終わりました。御意見、御質問等あればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

道徳ですが、私も現場にいたころは、道徳にはとても興味があって力を入れてきた記憶があるのですが、道徳の中で大切なのは、自分を見つめる、自己との対話、この辺のところが核になるのではないかと思うのですね。そういったところから、道徳的な価値について、そして、今もそういった言葉があるかどうか分かりませんが、補充し、進化し、統合させていく、これが道徳の授業の中のキーになるような活動ではないかと思います。そういう点で各者の教科書を拝見させてもらったところ、とてもその構成がよくできているな、そんな感想を持った訳です。

そういった中で、私があえてここで紹介させてもらうのは2者、教育出版と光村図書について感想を述べたいと思います。

教育出版は、資料の最初の簡潔な呼びかけと資料最後の学びの道しるべが、とてもよくまとまっているなという、取り組みやすいのではないかと、そんな印象を持ったのですね。あと、各学年に何か所かあるのですが、「ひろば」というページ、これが、先ほど私が触れましたけれども、学びを深めていく、広めていく、そういった意味ではとても有効的なページではないかという感想を持ちました。

また、光村図書ですが、これも全学年、巻頭にあるのですが、「道徳の学習を始めよう」というガイダンスがとても充実してい

飯田委員

て、道徳をより身近に感じることができて、学びやすいのではないかと、そんな印象、感想を持ちました。

道徳に関しまして、私はどの出版社も色々なスポーツ選手、そして歴史上の人物などを取り上げていていいなと思っております。例を挙げると、日本教科書では二宮尊徳、あかつき図書では大谷翔平、羽生結弦、池江璃花子さんなど、子どもたちにも知られているスポーツ選手が載っていたりしました。その中でも、先ほど採択検討委員会の中でもお名前が出ていましたが、井上康生さんが掲載されていまして、身近な大学出身で子どもたちの興味を引くのかなという思いがあります。

私は、やはり日本文教出版かなという思いがあります。

以上です。

佐藤教育長

やはり身近な方が載っているのはインパクトがあるかもしれませんね。

他はいかがですか。

小泉委員

先ほど牛田委員からもありましたけれども、教育出版のユニットプラスひろばという「ひろば」のところで、様々な視点から話し合ったり、詩を提示したり、ポスターとか写真とか、色々な視点から次に進めているところがすごくいいなと思っています。あと、同じく教育出版ですけども、最初のめあてが設問の形で書かれているので、子どもたちが目標を持ちやすいのかなと思いました。

それと、「学びの道しるべ」の振り返りで、やはり他者でも、教材に対する感想とか、自分自身に振り返って考えるとか、2つぐらい設問があるのでですけども、教育出版は3問あって、考える手だてになるのかなと思いました。

あとは、全体として作りが落ちついた感じで、メリハリがあるなという印象を持ちました。何故なのかと思ったときに、文字数が若干少ない、19行になっていて、文字がはっきりして見やすいのかなと思いました。

内田委員

道徳の学習で、東京書籍の3年生かな、「持続可能なまちづくり」のところはとてもいいなと思いました。

それから、日本文教出版の裏表紙だと思いますけれども、学習内容の一覧があって、学びの流れが見出しとともに記されているのもいいなと。それから、別冊で「道徳ノート」があって学習用記述が可能なんですね。これはいいなと思ったのですが、光村図書は、表紙に「きみがいちばんひかるとき」というのがあって、ページをめくるとちょっとしたストーリーが出てくるんですね。

佐藤教育長

この言葉って、道徳の中で子どもたちが一番、ここをぜひ意識してほしいなという意味合いで、これはすごくいいなと思った次第です。

あと、全体構成の中で、ユニット学習というのが非常に明確に記されているのが光村図書かなと思いました。

私もこのユニット学習というのは、僕も道徳をやっていたので、いいなと思いました。それで、コラムとかチャレンジとか、パターンではなくて、学び方が非常に多様であるということは、飽きが来ないという意味で、特に若い先生などからすると、バランスやメリハリがあっていいのかなという感じがしました。

これも、どの教科書も非常に優秀なので、本当に甲乙つけ難いというのが正直なところですよ。

よろしいですか、一通り意見をいただきましたので。

それでは、投票に行きましょう。

—投票・開票—

佐藤教育長

では、最後ですね。開票結果をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「教育出版」、飯田委員「日本文教出版」、小泉委員「教育出版」、内田委員「光村図書」、佐藤教育長「光村図書」。

道徳につきましては、教育出版2票、日本文教出版1票、光村図書2票、以上です。

佐藤教育長

最後に私が言ってしまったのがいけなかったですね。教育出版2票、文教出版1票、光村図書2票ということですので、はじめに確認したとおり、再投票ということになります。ゴールが少し先に行ってしまった感じですね。

再投票を行う前に、御意見があればぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

先ほどもあったのですが、これで変わるというのは、もう皆さん、2か月に渡って熟考いただいているところですけども。このまま変わらなかったらどうなるのかという心配もありますけれども、それは熟議ですから、結論が出るまでしっかりやりたいと思いますが、いかがですか。

私は今、投票用紙を書いていて思ったのですけれども、それぞれ「新しい道徳」とかタイトルがあって、光村図書の「きみがいちばんひかるとき」というのは、他とちょっと系統が違うのかなと思いました。

よろしいですか。ここでもう一度投票ということになりますけ

佐藤教育長

れども、よろしいですか。

—異議なし—

では、もう一度投票しましょう。

—投票・開票—

佐藤教育長

よろしいですか。では、開票の結果をお願いします。

教育指導課長

開票の結果を報告いたします。

牛田教育長職務代理「光村図書」、飯田委員「日本文教出版」、小泉委員「教育出版」、内田委員「光村図書」、佐藤教育長「光村図書」。

道德につきましては、光村図書3票、教育出版1票、日本文教出版1票、以上です。

佐藤教育長

開票の結果、中学校道德につきましては、3票ですので、再投票の結果、光村図書に決定いたしました。

お疲れ様でした。各種目別に御審議いただきまして、これで全て終了しました。

16種目全ての採択が終了いたしました。一覧表を作っていたら、それを配付した上で議案として採決したいと思います。事務局で議案としての資料を作成する時間がございますので、暫時休憩ということによろしいですか。

—異議なし—

佐藤教育長

では、暫時休憩ということで、よろしくをお願いします。

—休憩—

佐藤教育長

それでは、再開いたします。

傍聴者の方々には資料が配付されていますね。

それでは、議案第11号、ただいま御審議いただいたものを一覧表にいたしましたので、説明をお願いします。

教育指導課長

それでは、御審議いただいた結果を議案第11号として報告いたします。

令和7年度に使用する中学校の教科用図書について、種目、発行者の順で報告します。

国語「光村図書」、国語・書写「光村図書」、社会・地理的分野「帝国書院」、社会・歴史的分野「帝国書院」、社会・公民的分野「東京書籍」、地図「帝国書院」、数学「東京書籍」、理科「啓林館」、音楽・一般「教育芸術社」、音楽・器楽合奏「教育芸術社」、美術「開隆堂」、保健体育「大修館」、技術「東京書籍」、家庭「東京書籍」、英語「三省堂」、道德「光村図書」、以上です。

佐藤教育長

説明が終わりました。

佐藤教育長

教育指導課長

佐藤教育長

佐藤教育長

佐藤教育長

教育指導課長

それでは、採決に移ります。

議案第11号「令和7年度に使用する中学校の教科用図書の採択について」、原案のとおり決することで御異議ございませんか。

—異議なし—

よって、議案第11号は、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第12号について、提案理由の説明をお願いします。

令和7年度に使用する小学校教科用図書の採択について、お願いいたします。

小学校教科用図書につきまして、無償措置法第14条により、令和6年度から令和9年度まで4年間は継続して同一の教科書を採択しなければならないこととされています。

昨年度から本年度に関しまして、発行者などの問題もなく教科書が配布されており、来年度が2年目でございます。よって、令和7年度の小学校教科書は、今年度と同様に次のように報告いたします。

国語「光村図書」、書写「光村図書」、社会「教育出版」、地図「帝国書院」、算数「啓林館」、理科「大日本図書」、生活「東京書籍」、音楽「教育出版」、図画工作「開隆堂」、家庭「東京書籍」、保健「光文書院」、英語「三省堂」、道徳「学研」、以上です。

これについては継続ということですが、ただいまの提案について審議に入りたいと思いますが、御意見、御質問等ありましたらお願いします。よろしいですか。

—特になし—

それでは採決に移ります。

議案第12号「令和7年度に使用する小学校の教科用図書の採択について」は、原案のとおり可決することによろしいでしょうか。

—異議なし—

異議なしということで、議案第12号は可決されました。

続いて、議案第13号の提案理由の説明をお願いします。

令和7年度附則第9条本についてですが、他の教科用図書と大きく性格が異なるものでございます。

ここで説明させていただく教科書は、主に特別支援学校及び特別支援学級で学習をしている児童生徒が使用するものであります。児童生徒によっては、知的発達の遅れや障害の状況によって、在籍する学年の教科書は、その児童生徒の日ごろの学習活動に沿

わない場合があります。こうした状況の児童生徒に対して、特別に編集されたものや一般図書を提供して、その児童生徒の状況に合わせた教科用図書の使用を認めるものです。

手続き的には、小中学校の特別支援学級の担任が、保護者と話し合い、必要があれば、児童生徒の実態とともに必要な図書を選定し、教育委員会に書類で報告します。これを受けて、選定した図書が本当にその児童生徒の教科用図書としてふさわしいかどうか、教育委員会の指導主事が確認し、資料を作成いたします。

この資料をもって教育委員会会議で承認された場合、児童生徒が来年度使用できる教科用図書に認定され、来年4月に提供されることになります。

以上です。

佐藤教育長

提案が終わりました。御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

—特になし—

佐藤教育長

それでは、採決に移ります。

議案第13号「令和7年度に使用する学校教育法附則第9条による教科用図書の採択について」は、原案のとおり決することで御異議ございませんか。

—異議なし—

佐藤教育長

よって、議案第13号は、原案のとおり可決されました。

その他、事務局からありますか。

—特になし—

佐藤教育長

特にないですか。

皆さんの方からありますか。大丈夫ですか。

—特になし—

佐藤教育長

長時間に渡りありがとうございました。

それでは、以上で臨時の教育委員会会議を終了いたします。

ありがとうございました。